

映画の力で、心の支援を—— 被災地での無料巡回上映会

文：みやこ映画生活協同組合 理事・シネマリーン支配人

くしげたかずのり
櫛桁 一則



子どもたちのうれしそうな笑顔に、スタッフ一同力づけられます。

映画館に来られないなら、映画を持って行こう

3月11日、 未曾有の震災、大津波に襲われた岩手県宮古市。みやこ映画生協の映画館が入っている、いわて生協の店舗「マリンコープDORA」は被害を免れ、映画館も大きな被害はありませんでした。しかし、市内の現状を目の当たりにし、「こんな時に映画なのか……」と営業を再開すべきか悩む中、組合員から「子どもが楽しみにしています」という問い合わせを何件かいただきました。

「そうか、毎年恒例の“春休み映画”を待っている子どもたちがいる。こんな時だからこそ、映画だろう」と、3月26日に映画館の営業を再開しました。久しぶりにスクリーンに映し出された映画に、家族連れからは「再開してくれてありがとう」という言葉もいただき、職員一同感激しました。

しかし、映画館に来られる人は一握り。被害の大きな地域では、映画どころではない状況です。テレビをつければ震災特番ばかりで、大人でも滅入ってしまう映像の数々を見ながら、子どもたちはどうしているのだろう……と考えるようになりました。

映画館に来られない状況なら、いっそ映画を持って行こう！ つらい現実の日々、ほんの2時間でも楽しい時間（映画）をプレゼントしたい。全国からの支援で食料などは行き届いてきていた折、「映画でお腹を満腹にはできないけれど、心は満腹にできる」と思い、動き出しました。

映画館に来られない状況なら、いっそ映画を持って行こう！ つらい現実の日々、ほんの2時間でも楽しい時間（映画）をプレゼントしたい。全国からの支援で食料などは行き届いてきていた折、「映画でお腹を満腹にはできないけれど、心は満腹にできる」と思い、動き出しました。

多くの人の支援で、無料巡回上映が実現

通常の 劇場経営も厳しい中、さらに無料の巡回上映を行なうのは困難でしたが、活動支援の募金と学校への文具類の寄付をインターネットなどで呼びかけたところ、全国から温かいメッセージと共に支援が集まりました。映画会社から作品をいくつか無償提供してもらい、

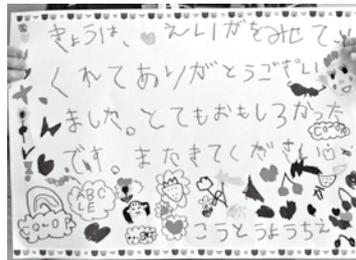
いわて生協をはじめ多くの団体から大きな支援もいただいています。

5月初旬、田老地区の避難所「グリーンピア三陸宮古」から巡回上映会はスタートしました。宮古市内の小学校や避難所、遠くは野田村、大船渡市まで、被災した沿岸8市町村・26カ所で開催し、延べ2,000人（8月9日現在）を超える方々に映画を楽しんでもらい、文具類も子どもたちに届けることができました。映画館に勤める方や学生さんが、夜通し運転したり夜行バスを乗り継いで東京や京都から手伝いに来てくれたりと、本当にありがたかったです。

上映会場では、目を輝かせてスクリーンにくぎ付けになる子、画面に向かって応援する子、テーマ曲が始まると拍手しながら大合唱が始まったり、会場が笑いに包まれたり……あらためて映画の力を感じました。「楽しかった」「ありがとう」の言葉にこちらもうれしくなります。

何をもって“復興”といえるのかは分かりません。しかし、それに長い年月がかかることは確かです。これからの未来をつくっていく子どもたちが大人になったとき、「震災の時、学校に映画生協が来て上映してくれた、みんなで映画を観て

楽しかったな、元気が出た」といつまでも心に残る、そんな活動をしていきたい。映画文化を通じて、さまざまな形で心の支援ができればと思っています。



園児たちが書いてくれたお礼の手紙。



施設によっては、高齢者も楽しめる作品の上映や寄席なども併せて行なっています。巡回上映会は秋以降も継続的に開催する予定です。